



2つのセルで作業 北上するグループ 関東でも暴れる

酷暑の夏、節電に一生懸命努力をしながら、広告宣伝規制に対応し、必死に営業活動をしているパチンコ店を嘲笑うかのように悪質なゴトグループによる新たな手口での被害報告が次々と入ってきております。前回お伝えしたユニバーサル系ロットのゴト被害ですが、九州地方で活動していたゴト

グループが北上しながら犯行を繰り返し、8月初旬に関東に現れ暴れているとの情報が入ってきております。このグループの手口は前回お伝えしたものと違う手口で、2つのセルを使ってゴト行為を行っている模様で、8月15日現在メーカーから配付されている対策部品では残念ながら防護出来ない手口です。

今回被害台の「緑ドン」V I V A「情熱南米編」には、「筐体左上部分」と「筐体左下パネルフック

ク部分」にゴト痕跡が残っています。このことから筐体左下パネルフック部分からセルを挿入すると、筐体左上部分の蝶番の部分に導入板(ゲタ)を差し込んで隙間を作り、筐体左上部分のセル返しが付いていない箇所からもセルを挿入して犯行を行っていることが窺えます。

「情熱南米編」の
筐体左上部分と
左下パネルフック

犯行時の挙動としては以下のような挙動が見られたとのことでした。
①B I Gを自力で引くまで遊技を行う。

②B I G中に筐体左上部分に導入板(ゲタ)を差し込み隙間からセルを挿入する。

③遊技台の電源が一瞬落ちる。(パネルランプも消灯する)

④筐体左上部分にセルを挿入した後筐体左下パネルフック部分からセルを挿入する。

⑤筐体左下パネルフック部分から挿入したセルはほとんど動かさない。

⑥筐体左上部分のセルと筐体左下パネルフック部分のセルを回収する。

⑦COMエラーが発生する場合があります。

これら以外に、見慣れない人物が並んで着席している状況や遊技台を囲むように立っている人物がいるなどの状況は、すべてのゴトに共通する留意点ですので徹底警戒をお願い致します。



ライト照らし確認を

MAX BET ボタンの

底部に不正基板

「緑ドン」V I V A「情熱南米編

ゴトに勝つ

2

高石隆一

「緑ドン」で進化手口2つ
防護策なく厳しく注意を

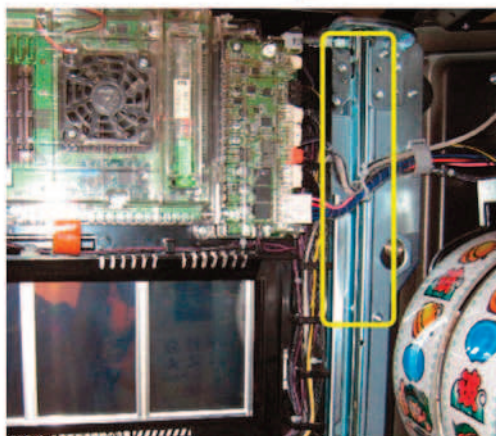


写真2「左上内側」セル返しの無い箇所



写真1「左上外側」隙間を作りセルを挿入する箇所

「」のゴトネタで、もうひとつ前回から進化したネタがあります。それはMAXBETボタンを狙ったものです。前回お伝えしたのは、1BETボタン／精算ボタン／MAXBETボタンの3点を交換するものでしたが、今回はMAXBETボタンの底部にある基板を不



写真4「MAXBET基板」基板を固定するツメの破損跡



写真3「MAXBET」ボタンを外す際についた小さな傷

正なものに交換し、その不正な基板から伸びている先端が配線に噛ませるような形状になっている特殊な配線をドア基板とサブ基板を繋いでいる2ピン配線に接触させるといふものです。

被害台には、MAXBETボタ

「緑ドン／VIVA!情熱南米編」でゴトグループが派手に動いているので優先的に注意喚起をしておりますが、深く静かにゴト被害に蝕まれているのがサミー系のロット機も定期的なチェックを忘

蝕まれるサミー系 ハーネス交換など 仕込み系が主流

ン周辺に傷が残っていました。以前より傷が小さく、薄暗いホールでは見つけにくい位小さな傷痕の場合もありますので、外側のチェックを行う際には必ずライトで照らして安全確認を行ってください。また、内側からのチェックを行う際には、MAXBETボタンの基板を固定しているツメの欠損、本来あるはずの基板の欠損や不正基板への交換、ドア基板とサブ基板を繋いでいる2ピン配線が他の配線と接触している等に注意してください。こちらの手口に関しても8月15日現在メーカーから配付されている対策部品では防護出来ない手口ですので、各ホールでの十分な注意をお願い致します。

れずに実施してください。

不正ハーネス発見は
営業データだけでは
かなり難しい

まずは、不正サブハーネスからですが、不正サブハーネスが仕込まれる箇所は主基板とサブ基板を繋ぐハーネス部分です。この不正サブハーネスには大きく分類すると三種類あり、一つ目は「ハーネスを丸ごと全交換するタイプ」「正

サミー系スロット機で被害が多いのは「交響詩篇エウレカセブン」「蒼天の拳」「新鬼武者」などで、全国的に設置が多く設置期間が長いART機を中心に狙われております。サミー系のゴトは仕込み系と言われる予め遊技台に不正な部品を取り付ける手口が主となっております。

仕込まれる不正な部品は、主基板とサブ基板及びそれらをつなぐ配線(ハーネス)の交換又は付加して取り付けられます。具体的には「不正サブハーネス」「不正サブ制御基板」「不正メダルセレクタ」の3種類の手口に注意してください。

規のハーネスに不正のハーネスを割り込ませるジョイントタイプ」「サブハーネスのコネクタ部に不正なフィルム状の基板を仕込むタイプ」があります。

これらの不正サブハーネスを発見するためには、営業データのチェックだけではかなり難しいと言えます。通常、二度仕込んだ不正品は、細く長く大切に使い莫大な金額を抜き取ることが目的なので、仕込んだお店の稼働や売上げに合わせて、一日につき幾らまでと金額の上限を決めて、一週間に何回と来店回数までも上限を決めて、お店にバレないように打ち子を徹底管理して不自然なデータが出ないように抜いてきます。そのためデータチェックだけでなく、定期的な視診・触診による点検の実施をお勧め致します。



ていねいな触診必要 配線の束の中に 不正基板を隠す

なぜ視診だけでなく触診が必要なのかというと、「丸ごと交換するタイプ」は外見上何ら違いが無く、ハーネス(配線)の束の中に小さな

写真5「サミー系サブ基板」かしめとサブ制御ロム

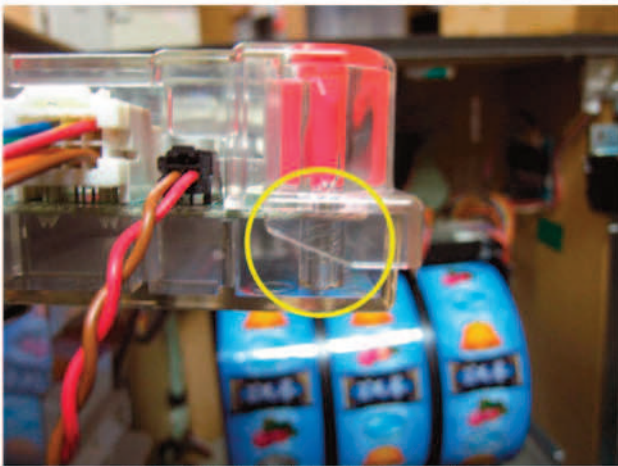
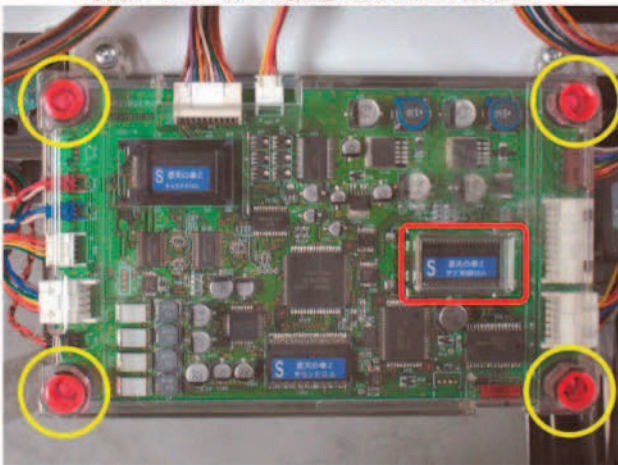


写真6「サブ基板かしめ」かしめのビス

不正基板が隠されているので、見ただ目からだけでは発見は難しいのです。更に小さな不正基板は、ハーネスを固定する金具部分周辺に当たるように作られており、触診からも逃れるように工夫されています。触診を行う際には、筐体内部左側のハーネスを固定している金具部分周辺を特に注意して、念入りに触診をするように心掛けてください。

過去の不正事案のパターンから今後の不正品の進化予測をすると、ハーネスのコネクタ内に小さな不正基板が仕込まれてくる可能性が高いと予測しております。その場

合、コネクタ根元がコーキングされた状態で不正基板が隠されていたり、コネクタ部を新たに不正コネクタとして作り直すことにより正品と色や形が若干違うなどの発見方法がありましたので、今後の参考にしていただければと思います。



「新鬼」「蒼天」の サブ制御ロムゴトは かしめに細心の注意

続いて不正サブ制御基板に関してですが、既に6月30日付けでメーカーから注意喚起の書類が組合を通して到達されているのでご存

知のこととは思いますが、「新鬼武者」と「蒼天の拳」の2機種において、サブ制御基板のロムが不正品に交換されるといふものです。しかし、この「サブ制御ロム」は、かしめで封印されたサブ制御基板内にあるため、不正品に交換する場合はサブ制御基板を丸ごと交換するという手口が主流になっております。

本来、不正サブ制御ロムだけを仕込めばゴトは完結するのですが、かしめの開封などゴトの痕跡を残すとせつかくの労力がムダになってしまう可能性が高くなります。

「店にバレない」という思考から上手にかしめを開封して不正サブ制御ロムに交換した後、かしめを再封印した不正サブ制御基板と丸ごと交換するという手口に行き着いたようです。

メーカーからかしめの点検を促す注意喚起文が発表されておりますが、不正サブ基板が仕込まれた被害台は、「サブ基板のかしめに擦り傷があった」、「かしめのビスが白く濁っていた」などの異常が確認されています。しかし、その異常は非常に微細なケースもありますので、サブ基板の点検は細心の注意を払って実施してください。

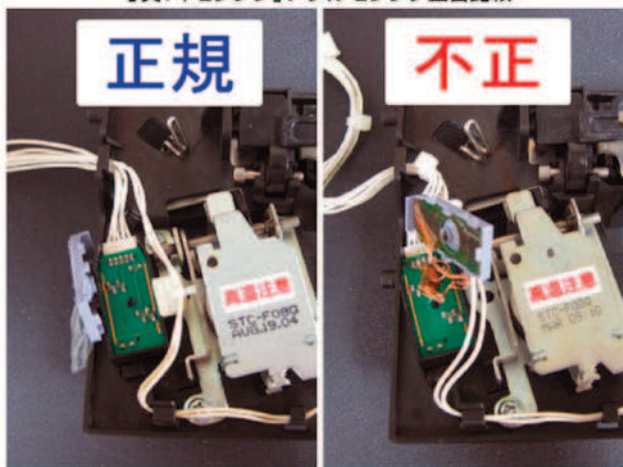
広がり見せる メダルセレクトク攻撃 マーキングの対応も

最後に不正メダルセレクトクについてですが、セレクトクのセンサーユニット部が不正に改造されたメダルセレクトクに丸ごと交換されるというものです。現在、サミー系スロットでは、「茶色のメダルセレクトク」と「黒色のメダルセレクトク」が使用されていますが、狙われているのは「黒色のメダルセレクトク」です。

そして、この不正メダルセレクトクの被害メーカーがサミー系だけでなく、平和・オリンピア社製筐体にも拡大してきております。セレクトクに使用されているセンサーユニットがサミー系黒色セレクトクと同様であった為、平和・オリンピアでも被害が出ているようですが、今後まだまだ被害メーカーが増える可能性がありますので要注意していただきたい手口です。

この不正メダルセレクトクが仕込まれ被害が発生すると、閉店後のデータで誤差メダルが発生します。打ち子しか知らない「○枚入れて

写真7「セレクトク」メダルセレクトク正否比較



数秒待ち、▲枚入れて数秒待つ」などの特殊なセット方法を実行することにより、改造された基板が作動し、セット完了後に入れたメダル1枚でクレジットが例えば10枚単位で上がったたり、満タンまで上がるようにもできます。そして、打ち子が万が一にセットしたまま帰っても、解除方法は「3枚連続投入する」というものだったりして、次にその台に座った一般のお客様が取る行動で自動的に解除されるように作られています。

不正品には正規のものには付いていない配線や基板が取り付けられて改造がされておりですが、正否判別を行うために不正品が取り

付けられている部分のカバーを一度外してしまうと、カバーが戻せなくなり、さらにはメダルセレクトク自体も高確率で破損してしまうので注意が必要です。現状で原因不明の誤差メダルが発生していない場合はセレクトクにマーキングするなどを行い、不正にセレクトクを交換された場合に容易に見えてくる状態にすることが大切です。

工具でこじ開け 不正部品装着に わずか40秒しか

サミー系の仕込み系ゴト手口について説明してきましたが、これらの不正部品は、だれが、いつ、どのようにして、取り付けるのでしょうか？

ゴトグループによって営業中に仕込まれるケースはいまだに起き続けている定番の手口で、今年初めには一般紙にも掲載されたニュースで、埼玉県警によって中国人ゴトグループが逮捕されたのは記憶に新しいことでしょう。このゴトグループは、5年ほど前から確認されており、この1年間だけでも埼玉、大阪、広島など11都府県

で被害額は1億5000万円に上るとのこと。営業中に不正部品を取り付けたということで逮捕されたこのグループの中国人の男が、逮捕後の実況見分で不正部品の取り付けを再現したそうですが、台鍵を使用することなく、遊技台の隙間に工具を突っ込んで台を開けると、いとも簡単に不正部品を設置したそうです。要した時間はわずか40秒ほどだったとのこと。1分以内で作業が終わるといえるのは、かなりの早業で発見は困難と思われるですが、実はそうではありません！

犯行時間が短時間であっても、ホールスタッフの接客力がゴト被害の早期発見につながるケースが非常に多いのです。仕込み方法とゴト発見の接客力については、次回に詳しく説明します。

■高石隆一 ■たかいしりゅういち
警備会社の指導員、セキユリティー会社を経て2003年、有限会社ジャパン・セキユリティ・サービスを設立し代表取締役。札幌方面遊技事業協同組合、札幌遊技業協同組合、札幌遊技業支配人会の顧問を務めるかたわら、パチンコ産業のセミナー講師を数多く務める。北海道警察本部の捜査にも協力している。「一期一会」が座右の銘。

●同様のメダルセレクトクを使用しているサミー系スロットのメーカーは、サミー、銀座、ロデオ、タイヨーエレックなどになります